

## 事務局長談話

令和6年7月31日

### 極めて残念な判断～敦賀発電所2号機

核兵器廃絶・平和建設国民会議  
(略称 KAKKIN)

事務局長 岩附 宏幸

原子力規制委員会の審査チームは7月26日、日本原子力発電・敦賀発電所2号機の原子炉建屋直下に将来動く可能性がある活断層の存在が否定できないとして、再稼働を事実上認めない判断をした。再稼働を巡っては、原子炉建屋の北側約300mのところにある「K断層」が活断層かどうか（活動性）、原子炉建屋直下まで延びているかどうか（連続性）が論点になっていた。

この判断については極めて残念、かつすっきりしないものであると言わざるをえない。というのも、最後まで規制委員会側と日本原電側の専門家の意見がかみ合わず、科学的な結論があいまいだからだ。さらに議論を尽くす余地はなかったのか。また日本原電が提出した書類に不備があったとはいえ、2015年の申請から9年が経過している。あまりに時間がかかりすぎているのか。

日本原電は引き続き稼働に向けて取り組むとコメントしている。KAKKINは今後も敦賀発電所2号機の動きを注視するとともに、審査に合格した原子力発電所の再稼働に向けて運動をしていく。

以上